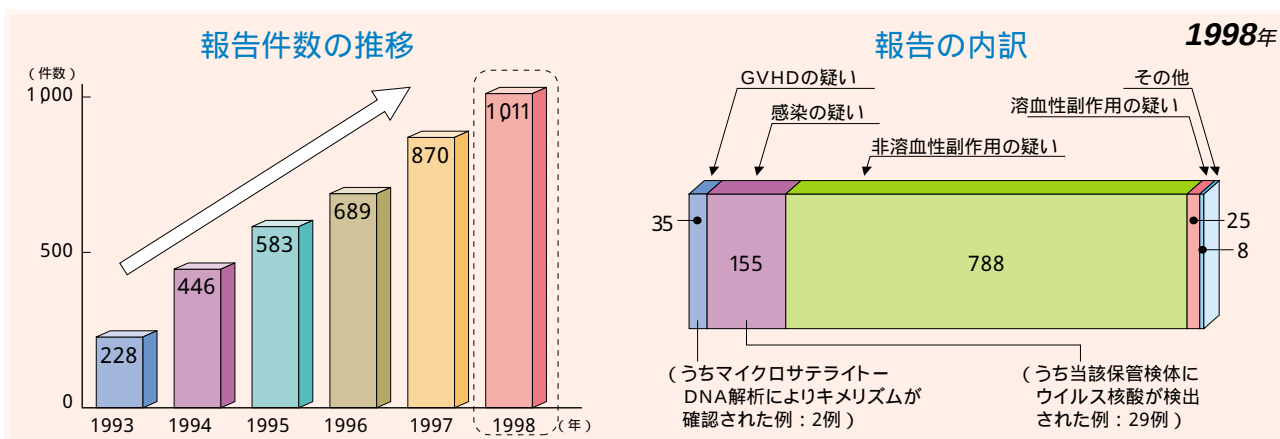


＋輸血情報

【赤十字血液センターに報告された非溶血性輸血副作用－1998年－】

1998年の1年間に、医療機関において輸血による副作用と疑われ、赤十字血液センターに報告された症例のうち、最も多い非溶血性輸血副作用について示します。

● 輸血副作用・感染症報告件数（医療機関から報告された数、輸血との因果関係が低いものも含む）



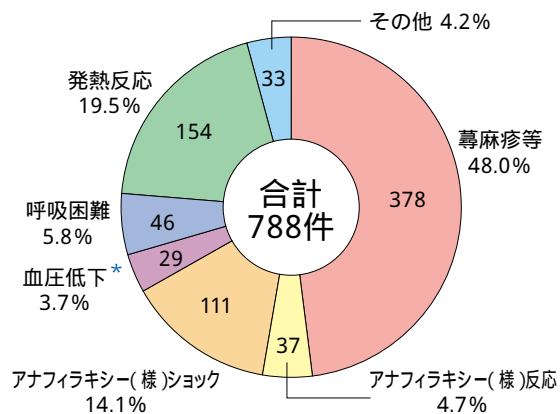
「非溶血性副作用」の報告が最も多く、全体の78%を占めています。

● 非溶血性輸血副作用（1998年）

■ 副作用の種類

副作用の種類別内訳は前年（1997年）とほぼ同様の比率で、『アナフィラキシー（様）反応』、『アナフィラキシー（様）ショック』、『血圧低下』及び『呼吸困難』の重症例が全体の約3分の1を占めています。

*近年、「血圧低下」の一部症例では、陰性荷電の白血球除去フィルター使用によるブラジキニンの産生¹や、ACE（アンギオテンシン転換酵素）阻害剤の併用によるブラジキニン分解抑制²との関連が指摘されています。



症状の分類

【アナフィラキシー（様）反応】

全身潮紅、蕁麻疹、血管浮腫（顔面浮腫、喉頭浮腫等）、呼吸困難等の全身症状を示したもの。

【アナフィラキシー（様）ショック】

「アナフィラキシー（様）反応」に血圧低下を伴ったもの。

【血圧低下】

皮膚症状、呼吸困難等の症状を伴わずに血圧低下を示したもの。

■ 使用製剤の種類

血小板製剤の使用による副作用が多く報告されています。

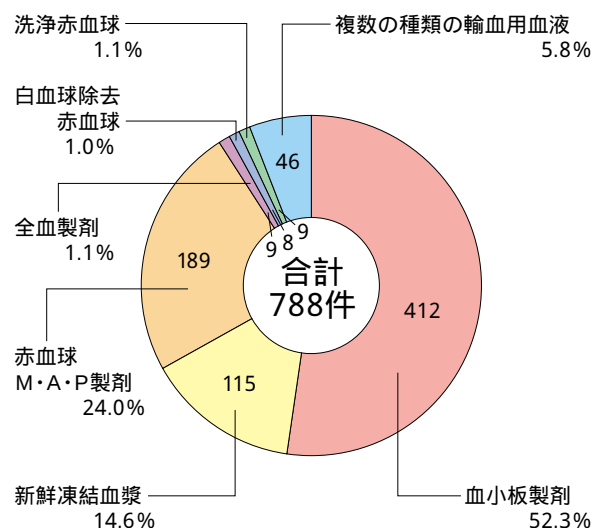
[参考] 供給数に対する報告数の割合

血小板製剤：約1件/1700バッグ

全血製剤：約1件/14900バッグ

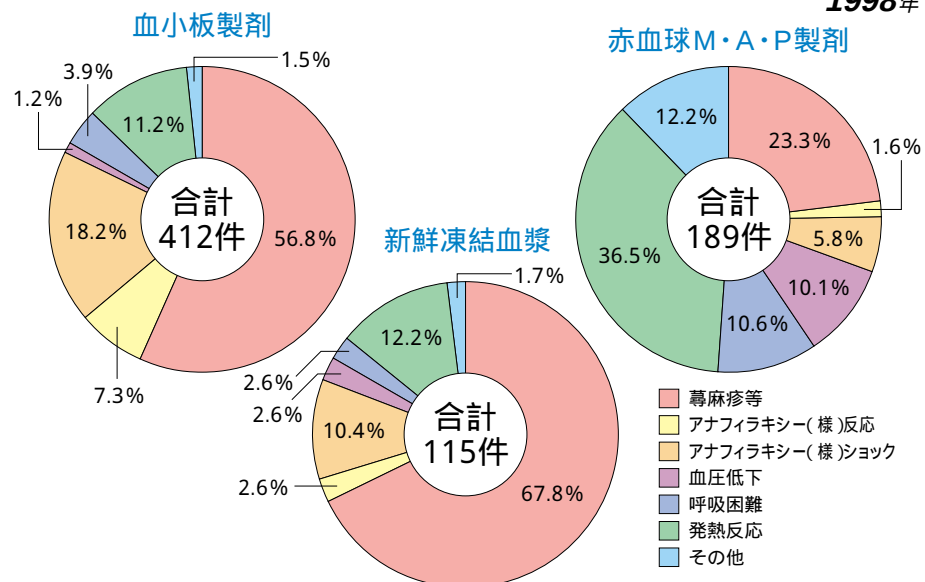
赤血球製剤：約1件/16700バッグ

血漿製剤：約1件/22500バッグ



■ 使用製剤別副作用の種類

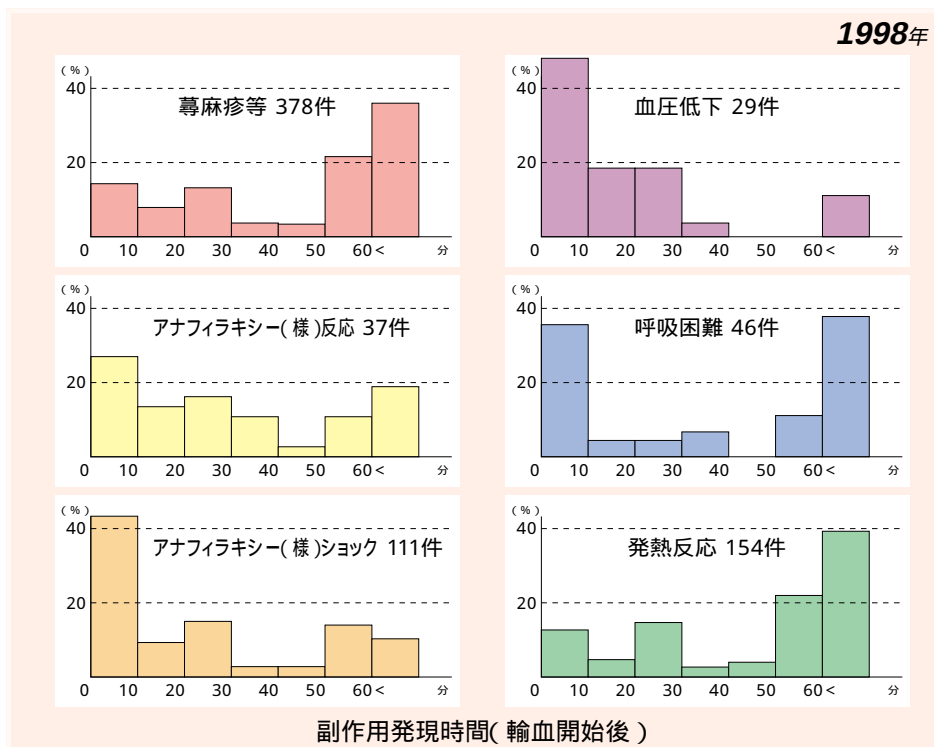
血小板製剤では「蕁麻疹等」の報告が半数以上ですが、重症例である「アナフィラキシー(様)ショック」も18%報告されています。新鮮凍結血漿では「蕁麻疹等」の報告が約3分の2を占め、赤血球M・A・P製剤では「発熱反応」、「蕁麻疹等」が多く報告されています。



■ 副作用発現時間

輸血開始後10分以内に副作用が発現した症例が、「アナフィラキシー(様)反応」で27%、「アナフィラキシー(様)ショック」で46%、「低血圧」で48%及び「呼吸困難」で36%を占めています。

輸血中は患者さんの様子を適宜観察することが必要ですが、重篤な副作用の発見のために少なくとも輸血開始後約5分間は観察を十分に行い、約15分経過した時点で再度観察してください。



輸血用血液又は血漿分画製剤の使用による副作用・感染症が疑われた場合は、直ちに、赤十字血液センター医薬情報担当者までご連絡ください。

また、原因究明のために、使用された製剤バッグ、患者さんの検体(輸血前・輸血後)等のご提供をお願いします。なお、使用された製剤バッグは、できるだけ清潔な状態で冷所に保存しておいてください。

■ 参考文献

- 1) Takahashi T.A., et al. : Bradykinin generation during filtration of platelet concentrates with a white cell-reduction filter(letter). Transfusion, **35**, 967, 1995.
- 2) Mair, B., et al. : Hypotensive reactions associated with platelet transfusions and angiotensin-converting enzyme inhibitors. Vox Sang, **74**, 27-30, 1998.

日本赤十字社中央血液センター 医薬情報部

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-31
TEL: 03-5485-6607 FAX: 03-5485-7620

■ お問い合わせ